

# ATR

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所



Innovative Technology for Human Communication

# ともに究め、明日の社会を拓く

情報通信関連分野の先駆的研究と  
イノベーション創出で課題解決に取り組む



## 私たちの存在価値

- 研究機関の視点でイノベーションエコシステムの発展に寄与します
- 社会課題に加え、創出型課題に取り組みます
- 先見力と挑戦心をもつ人材を輩出します

※ 創出型課題：研究者自らが見出し挑戦する課題



## 私たちの文化

- 他機関との協働や人材交流をオープンに推進します
- 国際的見地で価値を追求します
- けいはんな学研都市の発展に中核的な役割を果たします

## ご挨拶



ATRは創業以来掲げていたコーポレート・アイデンティティを37年ぶりに一新しました (<https://www.atr.jp/about/atr.html>)。ICT分野の研究サイクルが短くなったことを踏まえ、創業時の基礎研究志向に社会課題解決やイノベーション志向を加えた研究機関への脱皮を目指します。

現在の日本は、労働者の半数が正規雇用労働者でなくなり、自己研鑽の機会を奪われています。練度の低下は幸福感につながる個人の課題ではありますが、同時に社会経済的な課題でもあります。喧伝されているデジタルトランスフォーメーションや働き方改革の意義はこの社会課題の解決にあると思います。

2010年代半ばから立ち上がった第3次AIブームは、生成AIの出現により加速し、シンギュラリティが危惧されています。しかし、新しい科学技術に単に追い回されるのではなく、皆が面白がって使いこなし、それが人間の能力向上につながる「いのち輝く」社会も目指せるはずです。

ATRは大阪・関西万博でアバター共生社会を推しております。アバターを手始めに、科学技術と人間の共生社会をシステム設計することが真のイノベーションであり、ATRもその一端を担ぎたいと思います。

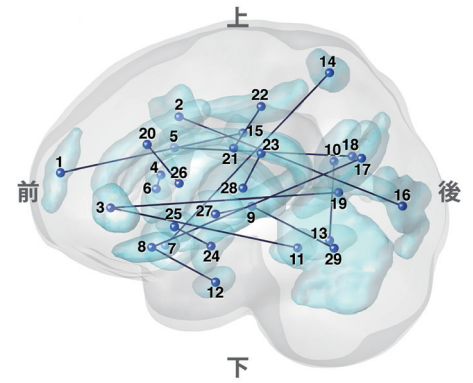
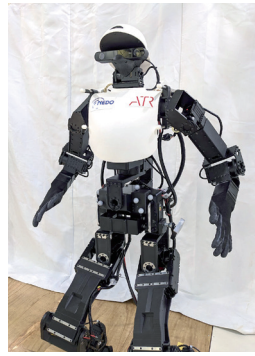
今後とも、ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年7月

代表取締役社長 浅見 徹

## 脳情報科学

脳機能の知見に基づくディープテックを活用し、脳と機械・テクノロジーをつなぎ、すべての人が利用できる革新的な技術基盤を確立します。



### CNS 脳情報研究所

— 計算理論に基づいて脳機能を解明する —

計算論的モデリングを通じて、脳機能の理解に基づくブレインマシンインターフェース(BMI)の開発をめざします。研究成果は、人工知能の発展や人に学ぶヒューマノイドロボットの運動学習理論、また人の運動・認知機構の回復の実現などの臨床応用につながることを期待されます。

### CMC 認知機構研究所

— 高次脳機能を解明する —

最先端の脳活動計測法やニューロフィードバックによる脳活動の研究により人間の高次機能を解明し、コミュニケーション支援や使い易いインターフェースの開発をめざしています。

### NIA 脳情報解析研究所

— 統計科学や機械学習により脳と人工知能との共創を実現する —

統計科学や機械学習に基づいた脳機能を理解するための手法の開発、それによる脳と人工知能とで似ている点と違う点の理解、また、脳科学に基づく人工知能の開発をめざしています。

## 深層インタラクション

ロボットやアバターが共生する快適な百寿社会の実現に向けて、人と人、人とロボット、人とアバターの関わりを深く理解する研究開発に取り組んでいます。



### ITB インタラクション技術バンク

— 深層インタラクションの研究成果を社会実装する —

深層インタラクションの研究成果を活用して、人々の暮らしを豊かにするサービスや製品を創出するため、様々な分野の企業と共同研究を行っています。

### HIL 石黒浩特別研究所

— 人と共生するアンドロイドの研究 —

実社会において人と親和的に関わり、人と共生する自律型対話アンドロイドの研究、ロボットやアバターによって人の活力を高める研究を進めています。

### ISL インタラクション科学研究所

— 人と関わるロボットからインタラクション原理を探る —

人と触れあう距離で動けるロボット、モラルインタラクション、サイバネティックアバターによる社会参加など、ロボットやアバターを用いた認知的インタラクションに関する研究を進めています。

### NHL 萩田紀博特別研究所

— 深層インタラクション研究領域の探索 —

異種のロボットや環境知能を連携させるネットワークロボットの研究を多様な分野と融合・発展させた新たな研究領域の可能性を探索しています。


世界最先端の研究成果の創出と社会への展開により  
 科学技術イノベーションと地方創生への貢献を目指します




### 無線・通信

ユーザー中心の視点で、あらゆる環境に対応し、安全で信頼できる通信を実現する無線・通信技術の開発と、電波を利用した先進的なアプリケーションの実現をめざしています。

**ACR 適応コミュニケーション研究所**  
 - あらゆる環境に適応し、安全で信頼できる通信の実現 -  
 生活空間からオフィス、工場まで、あらゆる環境に適応する無線・通信技術と、プライバシーを守り、信頼の基盤を築く先進セキュリティ技術の研究開発を進めています。



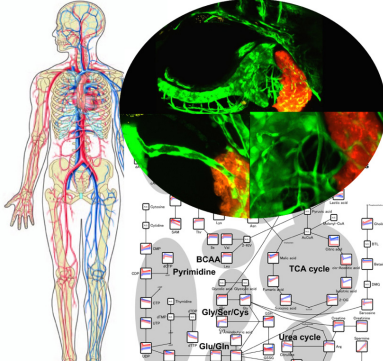
**WEL 波動工学研究所**  
 - 電波・通信技術が拓く豊かな未来をめざして -  
 安心で豊かな未来社会の実現に向け、電波・通信技術分野での新たな先進技術の創出や適用域の拡大をめざした研究開発を推進しています。



### 生命科学

器官(臓器)が互いにコミュニケーションを取り合うことで体全体の機能を調整する「多器官連関ネットワーク」に着目し、「生命のからくり」を解き明かす研究を展開しています。

**TNSL 佐藤匠徳特別研究所**  
 - 「何時でも何処でもライブクリニック」の実現をめざして -  
 持続可能で健康長寿な未来社会の創成をめざし、生物科学、医科学、数理科学、工学系科学、計算科学の融合による分野横断型サイエンス:BioMEC-Xを展開しています。




### 「けいはんなATRファンド」出資企業


\*けいはんな学研都市ATRベンチャー  
 NVCC投資事業有限責任組合

2015年創設の「けいはんなATRファンド\*」は、ATRの研究開発と親和性の高いスタートアップ企業へ出資してきました。ATRは出資企業との共同研究開発、研究成果の提供や技術支援を通して成果の事業化促進やスタートアップエコシステムの成長への寄与を目指しています。ATRファンドは出資企業が上場するなど具体的な成果を挙げています。




**ブルーイノベーション株式会社**  
 ATRのUNR-PF(ユビキタスネットワークロボットプラットフォーム)を応用したドローン管理プラットフォーム「Blue Earth Platform」を基軸にサービスを展開。2023年12月上場。



**ANYCOLOR株式会社**  
 成長著しいVTuberビジネスのリーディングカンパニー。ATRと連携し触覚も含むマルチモダリティの次世代型VTuberの実現に向けた検討を進める。2022年6月上場。



株式会社テレノイドケア <b>Telenoid+</b> Telenoid Healthcare Company	ユカイ工学株式会社 ・Y・U・K・A・I・ -E-N-G-I-N-E-E-R-I-N-G-	株式会社フィット Future Information Technology 株式会社 <b>フィット</b>	スプリームシステム株式会社 
--	---	---	--

アイディア株式会社 <b>Aidea</b>	エイアイビューライフ株式会社 	WaveArrays株式会社 	株式会社バックテック 
---------------------------	---	---	---

株式会社ログバー <i>Logbar</i>	株式会社XNef <b>XNef</b>	スマートスキャン株式会社 <b>Smart Scan</b>	REVISIO株式会社 <b>REVISIO</b>	株式会社ATR-Incubator
---------------------------	-------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	-------------------

## 関連会社

2004年以降、ATRの研究成果をベースにした製品・サービスの商品化・販売を目的として設立した様々な事業会社は、ATRグループにおける事業化の核として着実に成果をあげています。

### 株式会社ATR-Promotions

ATRの技術を用いた音声・センサ関連商品の開発、販売、ならびに高度な脳イメージング等の研究支援サービスを展開しています。

ATR-Promotions



### ATR Learning Technology株式会社

ATRの研究から生まれた英語学習支援システム「ATR CALL」の技術と株式会社内田洋行の教育支援ノウハウを融合し、新しい学習の場を創生しています。



\*ATR CALLは、ATRの登録商標です。

### 株式会社ATR-Trek

ATRの音声認識技術と株式会社フュートレックの組み込みソフト開発技術を融合し、携帯電話等への音声認識・翻訳技術展開を行っています。

ATR-TREK



## エコシステム構築

世界中のイノベーション機関や大学等と広範な連携ネットワークを築き、けいはんな学研都市におけるグローバルイノベーションエコシステムの発展に取り組んでいます。

### グローバル連携ネットワーク

研究機関の視点での事業化プラットフォームの形成をめざし、研究開発、インキュベーション、アクセラレーションの各グローバル連携ネットワークを充実させ、それらを有機的に結びつけ、“グローバルディープテックイノベーションネットワーク”の構築を進めています。



### スタートアップ企業支援

国内外のイノベーション機関(パートナー機関)から推薦されたスタートアップ企業が参加する支援プログラム「KGAP+」を実施し、製品・サービスの実証や事業成長のための協業先探索や日本国外進出の足掛かりづくり等を支援しています。ATR等の研究開発シーズの事業化や国内外市場調査を支援する「KGAP Explore」も開始しました。また、オープンイノベーションでの課題解決を支援する「KOSAINN/KOSAINN+」も実施しています。

KGAP+: Keihanna Global Acceleration Program Plus  
KOSAINN: Keihanna Open Global Service Platform for Accelerated Co-Innovation

## 社内起業(一部)

研究成果の社会実装や事業の発展をめざして研究所長等が自ら起業し、イノベーション創出に取り組んでいます。

### 株式会社XNef

脳情報通信総合研究所の研究成果である、デコーディッドニューロフィードバック(DecNef)法を応用した診断機器・治療機器・ソフトウェアを開発。2017年設立、代表取締役 川人光男(脳情報通信総合研究所長・ATRフェロー)

XNef

### 株式会社XBorder Innovations

ATRが構築に取り組んでいるグローバルイノベーションエコシステムの発展につながる、オープンイノベーションやスタートアップの支援を推進。2021年設立、代表取締役社長 CEO 鈴木博之(代表取締役副社長 兼 経営企画・イノベーション協創部長)

XBorder Innovations

### AVITA株式会社

深層インタラクション総合研究所ならびに大阪大学によるアバターの研究開発成果を活用した、アバターオンライン接客サービス「AVACOM」を開発・提供。2021年設立、代表取締役社長 CEO 石黒浩(石黒浩特別研究所長(客員)・ATRフェロー、大阪大学教授)

AVITA

### 株式会社ネイグローブネットワークス

波動工学研究所の研究成果をもとに、スマートフォンやブラウザを使いSNSを利用する感覚で近距離間の連絡・情報共有を可能にする、可搬型ローカル情報通信システム「LACS」を開発。2022年設立、代表 坂野寿和(波動工学研究所長)

neiglobe

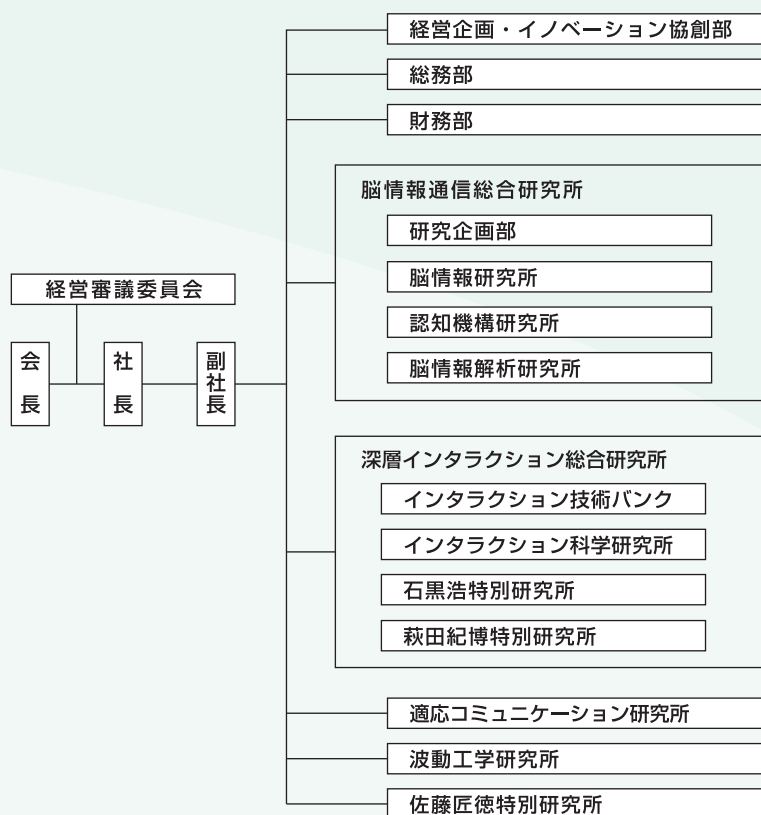
## ● 会社概要

設立	1986年3月 ATR設立 1989年 現在の地に移転
資本金	1億円(資本剰余金 約219億円)
株主構成	NTT、KDDI始め110社
所在地	〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2 (けいはんな学研都市)
社員数	245名(再掲:研究者163名) 研究者の内訳:契約研究者 94%、出向者 4%、プロパー 2%、 海外研究者 13%(2024年4月1日現在)

## ● 主な役員

取締役会長	松本 紘
代表取締役社長	浅見 徹
代表取締役副社長	鈴木 博之
取締役相談役	松本 正義

## ● 組織



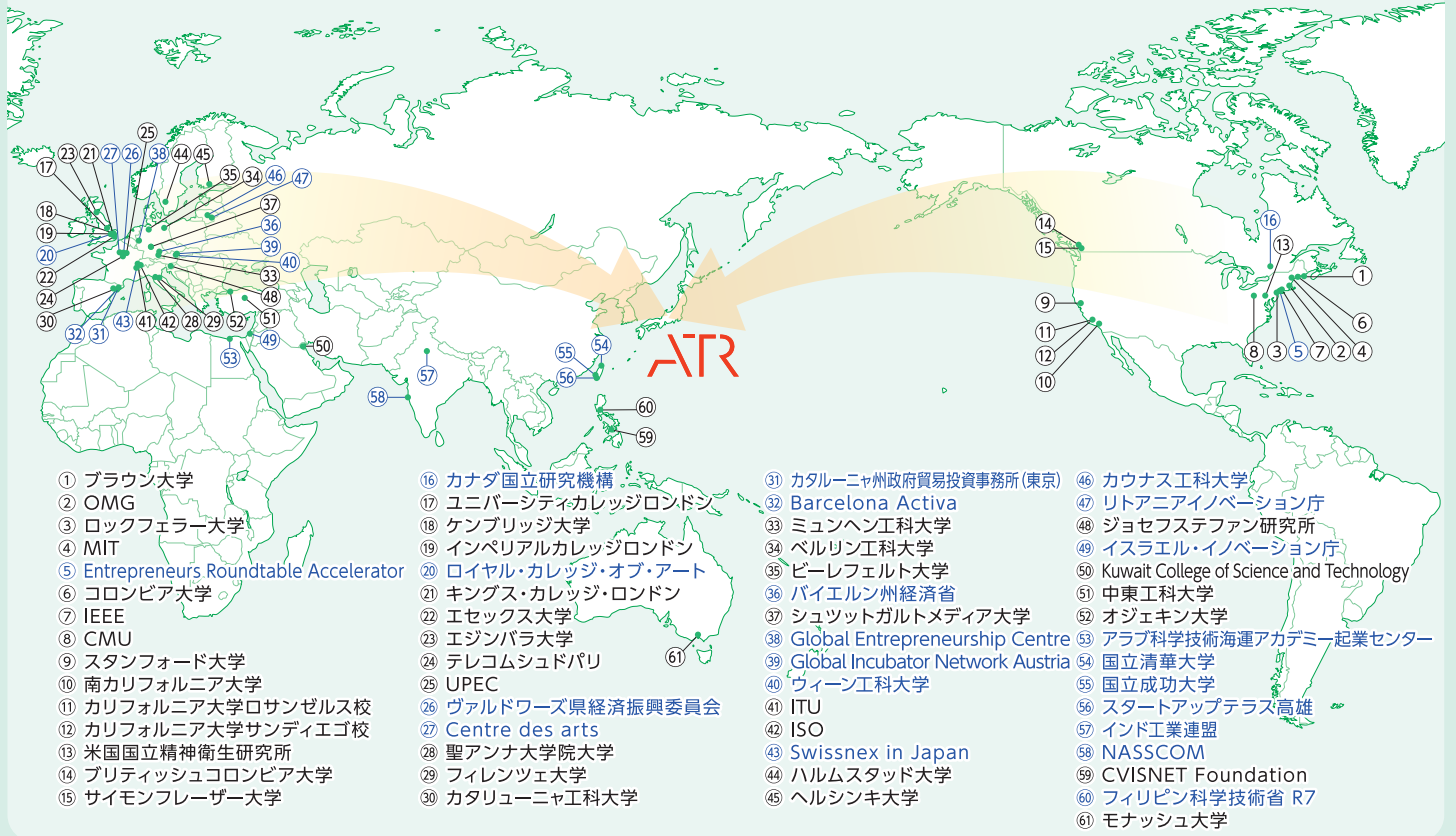
### ■ ATR 関連会社

- (株) ATR-Promotions
- (株) ATR-Research Partners
- ATR Learning Technology (株)
- (株) ATR-Trek

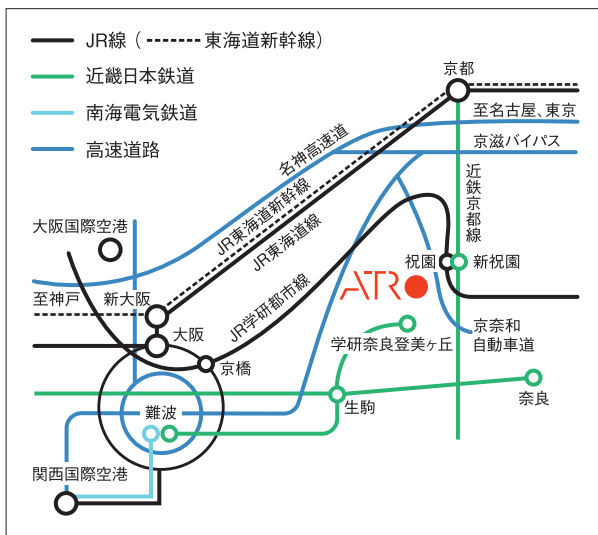
## ● 会社のあゆみ

1986年 3月	株式会社国際電気通信基礎技術研究所設立
1986年 4月	自動翻訳電話、通信システム、視聴覚機構、光電波通信に関する4研究所設立
1989年 4月	本研究所開所 (けいはんな学研都市最初の研究所)
2001年 10月	ファンディング・スキーム変更 (出資形態から受託研究形態へ)
2004年 11月	研究成果展開のための子会社「(株) ATR-Promotions」設立
2006年 4月	ファンディング・スキーム変更 (マルチ・ファンド方式に移行)
2007年 5月	研究成果展開のための共同出資会社第1号「(株) ATR-Trek」設立
2014年 1月	特別研究所開設 (オープンイノベーションの積極的な推進)
2014年 6月	事業開発室設置 (研究成果の事業化やエコシステム構築を推進)
2023年 5月	新たな基本理念「ともに究め、明日の社会を拓く」策定

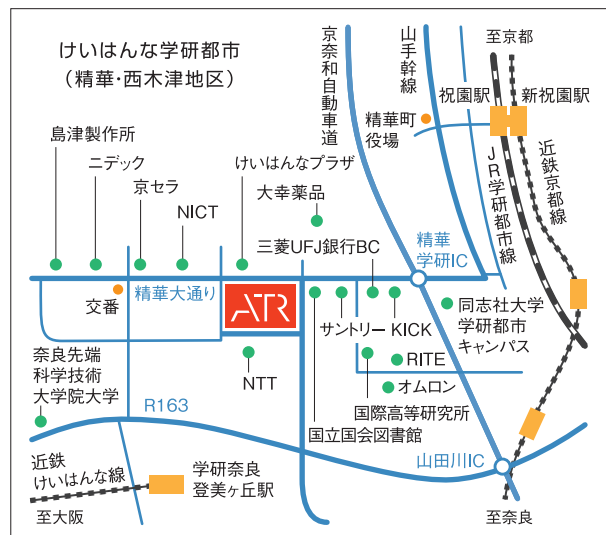
# ● 国際連携ネットワーク



## — 交通のご案内 —



近鉄けいはんな線学研奈良登美ヶ丘駅  
■ 奈良交通バス (約 15 分)  
1 番のりば: 56・59 系統「ATR」バス停下車 向い



近鉄京都線新祝園駅・JR学研都市線祝園駅  
■ 奈良交通バス (約 15 分)  
1 番のりば: 36・46・47・56 系統  
2 番のりば: 58・59 系統「ATR」バス停下車 すぐ

## 株式会社 国際電気通信基礎技術研究所

〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2 (けいはんな学研都市)

TEL : 0774-95-1111 (代) FAX : 0774-95-1108

URL : <https://www.ATR.jp/>

